



gallery * サイロ

およそ 50 年前まで村の一部の地域では酪農がおこなわれていた。冬場の牛の食糧として、トウモロコシの茎や葉を刻んだものをこの「サイロ」に貯蔵した。大人も子どもも中へ入り、積んだ草を踏み固めたそうだ。

道志手帖

Autumn 2016 no.13

Contents



表紙写真

撮影:香西恵(2016.9.19) 竹之本の神楽で「矢車」(男 舞い)に用いられる獅子 頭。十五夜祭にて。







[特集]

馬と人

「はたらく馬と過ごす一日」 …4 用語集 ことばでたどる暮らしのなかの馬 …6

竹之本の神楽 十五夜祭(若宮八幡神社祭り) …8

[新連載]

どうしの山 山みちマップ① 石川敬子 …10 はじめての養蜂① 抱井昌史 …12

[連載]

協力隊だより② …14 手造り遊び用具②豆鉄砲 仲井義晶 …15 お顔拝見②杉本純哉さん 仲井義晶 …16 みなもと体験館イベント参加② 世界で一つのものづくり 佐藤八重子 …16



「道志手帖」とは?

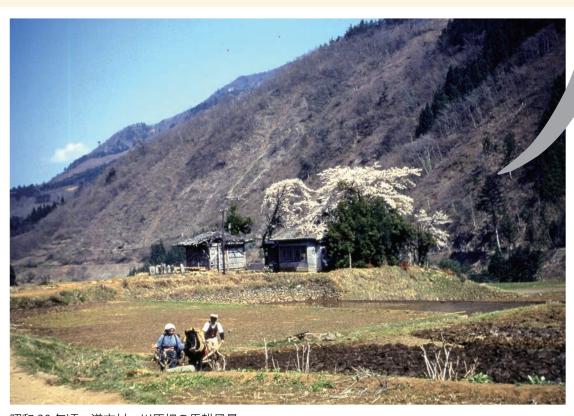
略して「ドウシテ」。「どうしってどんなところ?」という関心から生まれた、道志村地域おこし協力隊を中心とした有志による冊子です。村で生活していて気になったこと、おもしろいなとおもったこと、発見や驚きを、年4回報告していきます。2016年度からは新しい書き手による誌面をお届けします。書き手は常時募集しています。どなたでもお気軽にお問い合わせください。

77 لح

文化と景色があったのです。 だり、畑を耕したり、家族の一員でし 馬は山村の交通機関であり、炭を運ん 約70年前の昭和23 (1948) 年、 志村には約200頭の馬がいました。 道志村には馬と共に暮らしてきた 道

使った田畑の耕うんは昭和30年代中頃 を消しました。(馬耕体験チラシより抜粋) から機械に取って代わられ、急速に姿 しかしながら、 馬による運搬や馬を

します とともにあった暮らしについて、特集 をきっかけに、 今年の6月に村内で行われた馬耕体験 かつての道志村の、馬



馬」を復活させるべく活動を始めた都留環境

フォーラムの方々と馬のコータローとの出会

時代の話。まるで馬がそこにいるかの如く思 た。次に村の年配の方々が話す馬が共にいた と馬の歴史を感じずにはいられませんでし

い出を話してくれました。そして「はたらく

昭和30年頃 道志村・川原畑の馬耕風景

た。何より化石燃料を使わず、

馬の命を使い、

は力が強く、耕運機と比べはるかに静かでし

実際に自分がやってみると、思いのほか馬

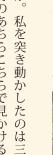
クレソンを育てています馬耕した田んぼで

育てています。 木の田んぼで、私はクレソンを ベントを開催することができま で6月19日(日)馬耕体験のイ した。その馬耕が行われた善之 多くの方々のご協力のおかげ

つです。まずは村のあちらこちらで見かける なぜ馬耕なのか。私を突き動かしたのは三

馬頭観音の無言の力。その多さにこの村の人







耕をしてみたいと思いま す。(千々輪岳史) 私はまたいつの日か、馬 似合うと思いませんか。 て心地よい風景でした。 道志の風景には馬耕が



元地域おこし協力隊の 千々輪岳史さんに 寄稿いただきました。

馬耕体験を開催した



昔の馬耕の様子 (西川鎌著『道志村と私』132 頁より抜粋)

くにしたがって、マンガーの両端を左右に持

料をよく混ぜ合わせるのです。

マンガーを押したり、

緩めたりして土と

鼻取りは

馬の

他の一

いのところにマンガーを馬に引かせて馬の歩

アラクリはまず、馬の後方1メートルくら

これを「アラクリ」といっていました。

を引かせて、土をどろどろにするのです

るのです。それから馬にマンガーという農具

新芽、若草をまきます。その次は中すきといっ

る程度にし、次に肥料として、

田シバ、

水を張るのです。

水の量は、

土が隠

まず馬にスキを引かせて、田の土を掘り

て、もう一回掘り起こして土と田シバを混ぜ

平にするのです。 え、最後はベテランの人が鍬を持って鍬の裏みまでよくアラクって、田のどろどろ土を整 の方を逆手につかって、 の中を順序よく馬を歩かせ、 す。竹竿によって馬の歩く方向を指導し、 歩かせて、その歩かせる方向を指導するので 端は一人前の人(女の人か、大きくなった子 た馬と馴れない馬とでは違うし、 それは大変です。馬をつかうのですから馴れ 供)が馬より一間半くらい離れて持ち、馬を 端を馬の口鼻のところに取り付けて、 マンガーを持っている人が馬にむちをあてる。 間半(約2・7メートル)くらいの竹竿の一 方向を指導するのが鼻取りです。 私も馬の鼻取りを二年くらいしましたが、 マンガーの作業は大人がやります。 泥土の表面の凹凸 田のすみからす 馬が止ると、

田

ろどろの田を歩くのですから、馬の足で飛 操作する人と馬との三者で行うのですが、ど それで馬が驚いて飛び出すこともあります。 アラクリは、鼻取りをする人とマンガーを 顔や頭は泥だらけになるのです。

ひと

用

語

集

うま

暮ら ことばで し の な たど か る の 馬

甚だ厄介な財産である 然しそれ程必要な馬も一年間を通せば仕事なしで休んでいる日のほうが多く 又は病弱な人の病院通いと「馬がなければ生活出来ない程の必要な存在である。 馬は田圃の仕事は勿論、 農家には何処の家にも馬が飼われていた。当時は馬は半財産ともいわれた。 あろうが お正月であろうが でも遊んでいるからと言っても飼料を休ませることは出来ない 一年三百六十五日 お盆であろうが 荷物の運搬、 一日も休まず 馬は食糧を遠慮しない 特に谷村町への木炭運び、 お祭りであろうが 又雨降り雪降りで

馬 0 世 話

【朝草刈り】

朝露に濡れている草は鎌の切れ味も良 馬を繋ぎ鎌と縄を持って刈場に登る 馬の尻に鞭打って共用草山に急ぐ 荷鞍の上に自分も乗り 手綱のはしで いぢゃー」と声をかける 先着の人達もみんな顔なじみばかり「早 先着の馬が何頭かいる 近くの木株に 馬の背に揺られること二十分 山に愛用の鎌をしばりつける 早朝四時頃起床 六月頃から九月末まで 毎朝馬で草刈 これを朝草刈りと言う 一東二東三東そして六東を刈り終 馬か飛び降りる 馬に鞍をのせ 草山の 鞍の



馬 0 身 0 口 n

【馬屋 (厩舎)】

この建物の二階を などを保管する 二階建で二階には冬期飼糧の乾草や藁 ある(母屋に着いた家もあった) 馬の住む建物である 馬屋のタナと呼ん 母屋の庭続きに

【こまや】

でいた

馬の鞍や用具 マなどを保管する場所 馬屋の入口近くにある小部屋 馬の飼糧の米糠やフス

【ません棒】

入っている時は何時も通行止 馬小屋の出入口 トウセン 棒 馬 が

【ひぐつ】

る時に持参する弁当入れ 馬の弁当袋 馬が一日がかりで出かけ

【おしぎり】

草や藁に米糠やフスマなどを混合した る用具(おしぎりで小さく小間切った のをひぐつにいれ弁当) 馬の飼糧の草や藁などを小さく小間切

顔にかけ 馬が小屋から出る時には

手綱に連結する

馬の頭から

【たてご】

はみ

はみをはずすと飲み食いが自由になる 綱を引けば主人の意のままになる ら左へ繋がる金具 これがあるから手 たてごに着いていて馬の口の中を右か

馬の鞍に六束の草をいわえ付ける

先

発の人達はもう出発している↓

馬場まで曳きおろす

わると

その六束を並べて縄をかけ

【馬のクツ】

履かせる 藁で作った馬のワラジ 凍り道でも馬がすべらないように蹄に

【くつわ】

家には無い

荷物をつける鞍

(乗用馬の鞍は殆ど農

鞍

を食うと言うが… したり怠けて時間を費やすことを道草 目的地に向かって行く途中で寄り道を

歩くのを止めて食い始める 道ばたの草を食うし好きな草があれば 馬は道草食いの名人で歩きながらでも

ぶせる用具をくつわと言う この道草をしないように 馬の口に

の根藤などで造る くつわは小さなザルのように あけび

ザルのようなくつわを どっぷりとか 達人でも絶対に道草は出来ない ぶせられると いかに道草食いの名人

【かなぐつ(蹄鉄)】

める) きさに合わせて作った鉄の蹄 馬の蹄を保護するために各馬の蹄の大 (釘でと

【かなぐつぶち(蹄鉄)】

識だった を打ち替えないと 蹄が伸びすぎるの 屋がある 馬の足の蹄の蹄鉄(かなぐ 少し下った所を鍛冶屋坂と言い その 所の鍛冶屋坂隧道をくぐり抜け其処を 道坂を越し開地村を経て谷村町に入る で 蹄を短く切って着け替えるのが常 どの馬も一年に一度か二度はカナグツ 左側に幾軒も並んで つ)を作っている カナグツ屋である 同じような鍛冶

道志村の馬はこの鍛冶屋でカナグツブ チする人が多かった

壁一つ離れた肥屋(堆肥置場)に積む

炭売り

これをこいだしと言う

草や藁を運び出して

春と秋の二回

馬屋内に積った馬糞や

荷をつけている馬の帰り道は早い 綱をはづして追い放し 後から来た人はまだ刈り場で刈っている 手

足早の馬の後を追いかけるように家に 帰り着いたのは七時過ぎ

盆草刈り

朝食前に一回 お盆の前に一日中専門に草刈りをする かなければならない そのために三日分の草を刈り貯めてお 三ヶ日は朝草刈りも休みたい 地獄の釜の蓋も開くと言われるお盆の これを盆草刈りと言う 午前に一回 そこで 午後に一

【ひ草刈り(きゃーばかり)】

線条に刈り乾す 自家所有の草山 晩秋から来年の初夏までの食糧の草を 天陽乾燥した草を束ねて 五・六日晴天が続けば草は青色のまま乾 天候を見きわめ (くさかっぱ) 馬や人の背 の草を

馬の供養のために建てられた馬頭観音

その馬方も

足の達者な

若

い女性が

混ぜ合わせたり便所の糞尿を混合して

た物に 又山から木の葉を掃いて来て

積み替えたりして堆肥を造る場所

処を肥屋と言う

こいだしで馬小屋の中から運びこまれ

飼料にする

と言う)に保管 で家に運び

来年の五月末までの

馬屋の二階

(馬屋のタナ

そ 0 ほ か

田畑の隅を耕しておいた。 馬が耕耘を始めやすいように人が予め (くろうない・くろごしらえ)

【馬墓地】

集落ごとにあった。 大事に食べた。 (聞 お肉をわけあって

なっていた。 村町に売りに行った。貴重な収入源に 釜の前には種付け所があり、 【大指は雌馬が多かった】 (聞 子馬を谷

者は、今日は村のどこのだれだれさん このスミ運びには、村の若者が心おど つかったものです。 その人は前の集団か後の集団か、 自分の集団に目当ての人がいない場合、 が谷村町に行くといううわさを聞くと、 らす一時もありました。村の娘さんも

た 5 く 馬

は

【炭売り】

とか一円で売ります。 て谷村町に行き、仲介人に一俵五十銭 炭俵を馬の背に乗せて、 道坂峠を越え

ら後からと続く風景を峠の上から見下 四俵を積んだ馬が峠道を、ひとかたま じられました。 ろすと、さながら絵のように美しく感 んだ峠の上り下りは馬の満艦飾。 行くのが見られたものです。起伏に富 り三頭から十頭くらいの集団をなして 炭焼きシーズンには、毎日毎日、炭俵 後か

馬を引いて、炭を運びます。若 気を

> 道志村の農家には殆どの家に馬が飼 (駄賃つけ)

その人達は一年中夏冬をとおして炭焼 当時農家でない家もあり 又農家とは 肥の源であり農作物の を刈りその草が一年中の馬の飼料とな それでも馬が居なければ 農業が成立 働く日より休んでいる日が多いが ある(当時は化学肥料は全然無かった) しない 馬がいるから夏中一生懸命草 いえ小農の家には馬はいなかった れていた 然しこの馬達は それ以上に農業には欠かせない堆 最高の肥料で

然し馬がいないから 谷村町の炭問屋 ら足の達者な馬方のいる家を選んで依 き専業で製炭していた へ運べない だから馬のある家の中か

便のように 谷村に往復する この駄賃つけの馬の馬方が そして契約を結ぶのである 駄賃つけと言う こうして責任を持って運賃を稼ぐ人を 毎日定期

なかなか重宝の存在であった この駄賃つけは馬も元気な馬 自宅まで運んでもらったりで 買い物をして その買い物荷物を村の を頼んだり 又徒歩で谷村に行って この人達を利用して 谷村からの買 そして

には道志の局にその袋を持ち込む わりに道志宛の逓送を受け取って夕方 自分の愛馬の鞍にのせ れた逓送袋を受け取り 逓送の人は毎朝郵便局に行き て約三間 谷村局に逓送袋を渡して替 道坂峠を越 密封さ

出典『大正時代に使われていた道志村のしきたり風習』山口大八/(西):西川いさむ『道志村と私』/(聞)聞き取り



竹之本の神楽



われた。

中央公民館二階に場所を変えて祭りがおこな





輿」もあったという。

ちが神輿をかついで家々をまわる「子ども神

祭りが続いたそうだ。また、夜には子どもた

集落全戸をまわる「村舞い」があり、

三日間

で神楽を奉納する一日のみの祭りだが、

り「十五夜祭」がある(※-)。今でこそ神社

竹之本では、

十五夜に若宮八幡神社のお祭

20年ほど前、それまで神楽を担って来たの雨で境内での舞いは叶わなかったが、にくの雨で境内での舞いは叶わなかったが、今年の十五夜祭は9月19日敬老の日。あい今年の十五夜祭は9月19日敬老の日。あい今年の十五夜祭は9月19日敬老の日。あい今年の十五夜祭は9月19日敬老の日。あいたくの雨で境内での舞いは叶わなかったが、

新拍子(女舞い)と、矢車(男舞い)。舞い習が重ねられて来た。今回奉納されたのは保存会では1月から週に一度、神楽の練

で担当する。/※3 近年は若宮八幡神社のほかに「大家」(屋号)の駐車場で舞う。/※4 当時は補助金等はなく、神楽堂の新調は全て寄付金によるものだそう。



①②「女舞い」と「男舞い」で被る獅子頭が違う。男舞いのほうが眉間が盛り上がり厳 めしい顔つき (②)。それに比べ女舞いは穏やかな表情 (①)。/②左から、太鼓の先生・ 佐藤秀信(ひでのぶ)さん、舞いの先生・山口輝(あきら)さん。/③村役場の隣りにあ る若宮八幡神社。晴れた日は奉納の後、境内にござを敷き車座になり、持ち寄ったごち そうを皆で囲む。/④法被の背中・かぐらの前・神楽堂の幕には揃いの「朝日」と「か らす」が描かれている。/⑤子ども神輿。/⑥神楽堂上部の彫刻。/⑦神楽堂の幕の正 面には「竹之本若れん」の文字。





関わる人たちを魅力的にしている。(香西恵 守って来たこと、 切れさせずに神楽を繋いで来たこと、祭りを 違いはあるが、 自分たちの守って来たものへの愛着と誇りだ。 道志村には集落ごとにさまざまなお祭りが (が減り、 祭りのかたちが変わっていくの いくつかの神楽がある。 けれども、 担う人たちに共通するの そのことが、神楽や祭りに かたちを変えてでも途 祭りや神楽に

手は山 だんは静かな公民館に、力強いお囃子が響く。 鼓は保存会の会長でもある山口秀司さん。 こへ「ヨイトナ」などと掛け声が加わる。 光男さんと佐藤茂栄さん、 哲央さんと山 \Box 勝二さん。 山口義弘さん。 笛は佐 そ 太

※ 1 近年は旧暦の十五夜に近い休日に行われる。村では十五夜にお供えしたものを子どもたちがさげに(もらいに)来る風習がある。これに加えて竹之本では十五夜祭がおこなわれる。/※ 2 若蓮は若者の有志の集まりで 45 歳位までの定年制があった。保存会は定年制がなく、会長・副会長は 2 年ごとに持ち回り

社殿の木製のお

輿も大切に仕舞われている。

賽銭箱や看板は集落の人の手づくりである。

また本殿には、

かつて使われていた子ども神

や頼朝の巻狩りなどさまざまな場面が彫り込

細部まで見事な彫刻が施されている。

ま安置されている。

上部には百二十もの龍

度新調された(※4)もので、

真新しい姿のま

用いる神楽堂が収められている。

神楽堂は

若宮八幡神社には神楽殿があり、

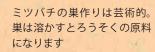
村舞

いに



山伏峠で最初の一渦がうまれた道志川に沿って振かれた道志村を一望できる山です。昔は「殿山山」あるいは「殿群山」でした。「むれ」は山の意味で、大群大権現のある大室山に従うということらしい。 由来が不明になって今の字が当てられたが「とのむれ」「とんのむれ」とこだかって呼ぶ、登山者も今い。 登山コースは4本くらいあるがどこから澄っても道志の山々は急なので、充分注意してほしい!







お腹の大きな女王 蜂。女王蜂は群に 原則1匹です

ミツバチを購

4月下旬にミツバチを置く場所

し、女王蜂の有無を確認します。

チ」で養蜂を始めることにしまし ることができる「セイヨウミツバ かったため、初年度は買って始め 始めることは、少々難易度が高 ニホンミツバチを捕まえて養蜂を という話もお聞きします。自然の ことができました。しかし、最近 採ったといったお話を何度か伺う したり、自然にできた巣から蜜を まうこともないため、養蜂用とし す。日本の在来種であるニホンミ ではその姿をあまり見なくなった 道志村ではニホンミッバチを飼育 て飼育されるようになりました。 ように神経質で巣から逃亡してし ツバチと比較すると、集蜜力が高 導入されたセイヨウミツバチで く(約5倍)、ニホンミツバチの **大**バチの中で明治時代以降に

場所は的場の直売所の川向で、2 を3つ買ってスタートしました。 を決めて、5枚群(巣板の枚数) きました。 を2つ置いて、その上に巣箱を置 年ほど前に牛を飼っていた場所の 綺麗にしてコンクリートブロック 番上の段です。カヤを刈払機で

静かになったら巣箱の中を観察 状態で届きます。届いて早いうち に巣箱を設置場所に設置し、蜂が 巣箱はゆうパックで蜂が入った



ニホンミツバチ より黄色っぽい セイヨウミツバチ



-回り小さく ちょっと黒っぽい ニホンミツバチ



探索蜂がすみかになるところを見つけるまで塊になって



王台です。上の方の蓋のついた六角形の巣の中に働き蜂 が、左の方の大きめの六角形に雄蜂がいます。女王蜂の 部屋はそれに比べてとても大きいです

蜜源になる植物







放っておくと、巣箱の色々なとこ

チも勢いよく増えて、

週間も

箱のうち1箱を採蜜群に、

2箱は

今年は不慣れだったこともありる

蜜群としては適さなくなります。

集める力が落ちてしまうため、

採

き蜂の数が減ってしまうと、蜜を ます。分蜂して、1群当たりの働 で分蜂が起きてしまうことになり

①今年の主要な蜜源 の一つ。ニセアカシ アの花/②初秋の頃、 ミツバチが訪れる葛 の花/③秋の蜜源に 「そば」。そばの なる 蜜は栄養価が高いそ うです

類によって女王蜂になるか、 王蜂を作り、群が2つや3つに分 があかなかったり、巣板がくっつ ろに無駄な巣を作ってしまい、 女王蜂の巣房は通常より大きく 蜂になるのかが決まります。また、 ます。雌の卵は羽化後のエサの種 かれてしまう現象も起きました。 気が良かったりすると、新しい女 いたりしました。また、分蜂といっ よって雄蜂と雌蜂の卵を産み分け て、巣箱が手狭だったり、 女王蜂は通常、 巣房の大きさに 蜂の元 働き

箱は確認できず養蜂業者さんへ連 箱は確認できましたが、 うち 2 箱の女王蜂を見つけること ができませんでした。後にもう1 最初のうちは勝手がわからずる箱 絡し交換してもらいました。 最後の1

春から初夏の飼 月から5月に掛けてはミツバ

今年の蜜源の花

た。

間にか分蜂してしまったりしまし

やすために分蜂させたり、 来年度以降のことも考え、

群を増

咲く5月中旬ごろには、 ことができました。(抱井昌史) 板に蜜がドンドンたまり、 と思います。ニセアカシアの花が の木が、大きな蜜源となっていた 屋さんの前の大きなニセアカシア とした重さで蜜の量を実感する 今年の蜜は、道志川沿い日の出 巣箱の巣 ずっ

台を放置してしまうと一週間程度 目で見分けがつきます。 女王蜂の巣房を王台といい、 王

12

富士なすと食用菊とはちみつ

てていた富士ナスや小松菜の販売販売したり、直売所の上の畑で育販売したり、直売所の上の畑で育販でででいた富士ナスや小松菜の販売の場の上の畑で育りです。

富士なすは追肥をするとすくすく成長し、大きな実を沢山つけまく成長し、大きな実を沢山つけました。お盆前には、1回に200 世が少々固めなので、素揚げしたり、煮るとおいしく頂けます。また、薄くスライスして焼き肉のたた、薄くスライスして焼き肉のたた、薄くスライスして焼き肉のたた、薄くスライスして焼き肉のたた、薄くスライスして焼き肉のたた、薄くスライスして焼き肉のたた、薄くスライスして焼き肉のたち、



した。管理機で耕耘し、マルチを

た。その後、たい肥を200㎏

苦土石灰や化成肥料を施しま

ほど客土し、水はけを改善しまし

食用菊を8月24日(水)に県の方の指導のも と植え付けました

で植え付けました。(抱井昌史)4種類の食用菊の苗を、45㎝間隔3列はり、7月から管理していた



的場の直売所で7月9日(土)から販売をしました。土日だけの販売ですが、ほぼ完売しました

秋作の準備

夏の野菜作りもそろそろ終わりに近づき、そろそろ秋に向けてのに近づき、そろそろ秋に向けてのた。種や苗の植え付けをしていきたいところですが、このところ台風の影響もあり、なかなか思うように作業が進んでいきません。 畑の土が粘土質だと土に含まれた水分が何日たっても抜けきらずめ立てなどが相当な重労働となります。粘土質を改善するために堆



昆布、

みかんの皮、など色々と足

してみて試行錯誤してみました

なかなかおいしくできず苦悩

しておりました。そんなある日の

は、

ぬか床に山椒の実、唐辛子、

6月から始めたぬか漬け作り

重石の下には大根のビール漬けが漬かっております。何ヵ月も漬けてても味が変わらないそうです。長期保存出来るのがすごい魅力的です

いところです。(七瀧佳至)手に入れば大量に投入していきた肥や木のチップなどの有機資材が

新しい商品作り





樽に漬けて 10 日後に取り出した大根のビール漬けです。 見た目も味もなかなかいい感じです。味は甘いたくわん にビールの香りがほんの少しだけする感じです。ビール の味はしないので子供でも全然おいしく食べれます



左のでかい樽がぬか漬け用の樽で、ぬか床が約12キロぐらい入ってます。右の二つが大根のビール漬け用で、一つの樽に約5キロの大根が漬けてあります

ル漬けが出来上がりました。ろ、なかなかおいしい大根のビーろ、なかなかおいしい大根のビー早速レシピ通りに作ってみたとこ

ぞ!」と助言を頂き、大根のビー

漬けを作ってみろ!

絶対売れる

いになった方から「大根のビール8月の始め頃に、道志村で知り合

第販売したいです。(鳥澤拡太) 売していきたいと思います。ぬか売していきたいと思います。ぬか



編集後記

新しく「山みちマップ」と「はいかがだったでしょうか。新体制で2号目となる今号。

じめての養蜂」の連載が始ま

憶等の記録を、いずれ続編とし 特集「馬と人」では、文献の 暮らしにかけがえの無いもので あったかを感じました。今回は 文献からの抜粋ばかりになって しまいましたが、残されている しまい居がにまつわる用具・記

て計画したいです。

また、「馬」についてお話を伺 うなかで、「牛」のお話が出てき うなかで、「牛」のお話が出てき ました。数十年前までおもに津 大井に近い地域で行われていた 略農のことです。こちらは馬に 比べれば一部の地域に限られま すが、馬とはまた違うかたちで 生活の支えになっていたことが 伺えました。「牛」特集も近々実 現したいです。 最後に、今回の表紙を飾るの 最後に、今回の表紙を飾るの は道志手帖第2号以来の獅子頭。

15 道志手帖

しています。(香西)

no.13

発行日

2016

年9月28日

発行

道志村地域おこし協力隊



みなもと体験館イベント参加 ドキドキワクワク体験コーナー 2

憧れのスローフード体験、木工体験。道志村に移住してきた私にとって、みなもと体験館でのイベントは毎回未知の事でいっぱい! 私のドキドキ、ワクワクをこのコーナーで紹介します。

世界で一つのもの作り

みなもと体験館では、電動糸のこ盤などの道 具の使い方をスタッフの方が基礎から教えてく ださり、様々な木工体験ができる。 持ち込んだ 木や材料で世界で一つのもの作りが楽しめてし まう!

亡父の作ったステンレスのクロスのパーツを持ち込み、スタッフのアドバイスを伺い、ネックレスを作った。 クロスは、彫刻刀で木を削り、埋め込んだ。 貝だけなく、木を埋め込むのも象嵌と初めて教わり、びっくり。

無心になって「つくる」贅沢な時が過ぎる。

製作材料として館内には、クルミや、栃の木など様々な木の実も置いてある。 しかし、栗はないとのこと。スタッフ曰く「食べてしまうから!!」これも、自然から多くの恵みを頂いている







道志村の微笑ましい話。(佐藤八重子)

★木工体験機械使用料、指導費とも村民は無料との事★ 営業時間:9:00~17:00 定 休 日:毎週火曜日

電 話:0554-20-4688 予約優先

